

「宮沢賢治詩集」岩波文庫、岩波書店 1950年12月15日刊を読む

十一月三日(雨ニモマケズ)

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ

欲ハナク

決シテ瞞ラズ

イツモシヅカニワラツテヱル

一日ニ玄米四合ト

味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジヨウニ入レズニ

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

野原ノ松ノ林ノ陰ノ

小サナ萱ブキノ小屋ニヱテ

東ニ病氣ノコドモアレバ

行ツテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ツテソノ稻ノ束ヲ負ヒ

南ニ死ニサウナ人アレバ

行ツテコハガラナクテモイ、トイヒ

北ニケンクワヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイヒ

ヒデリノトキハナミダヲナガシ

サムサノナツハオロオロアルキ

ミンナニデクノボウトヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ

サウイフモノニ

ワタシハナリタイ

P325 ~ 327

[ コメント ]

シャカの晩年の教えを記した法華經の精神をこれほど具体的に伝える詩(ことば)はないと思われ  
るのが、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」。人間としての生き方を示す心に響く詩。

- 2009年11月17日林明夫記 -